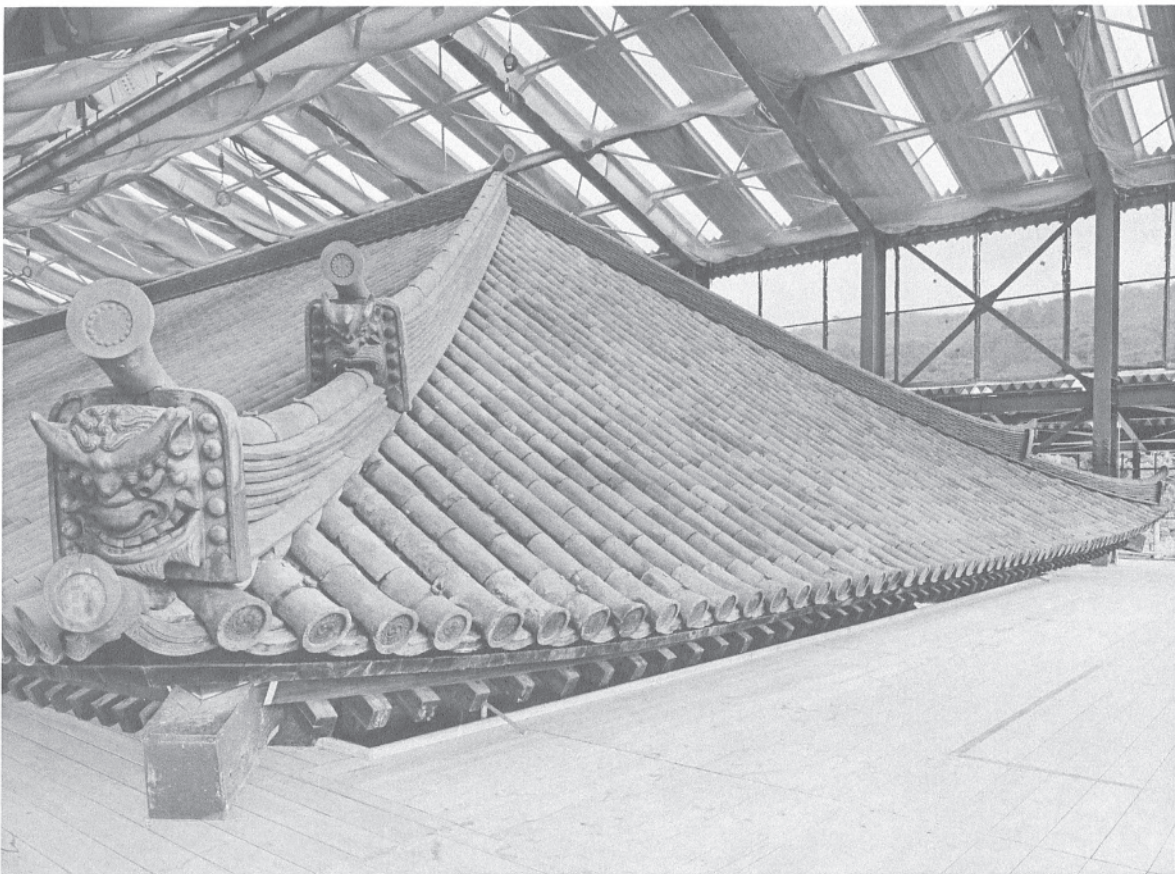




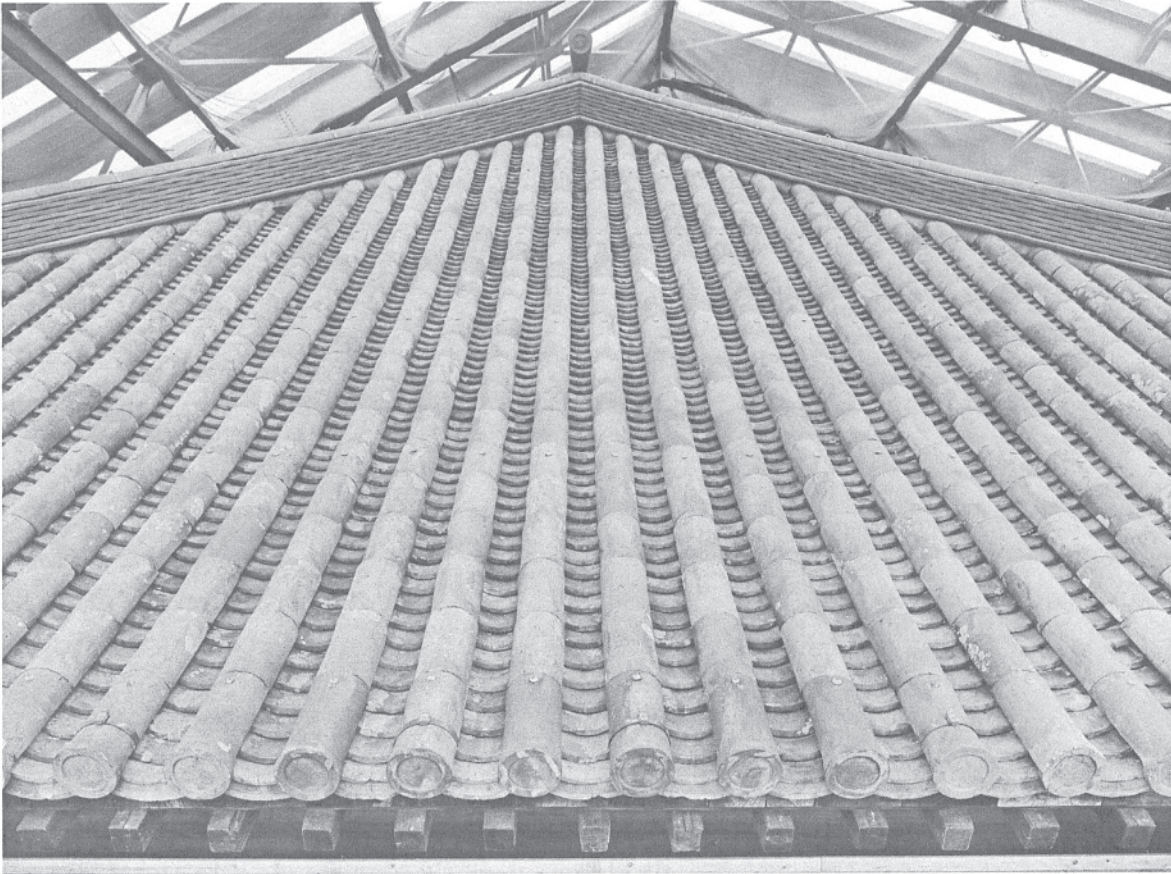
127 北面の本瓦葺葺き上がり

東北より見る。東北隅棟の二の鬼瓦は今回の修理で造り替えたもので、前に据わる一の鬼瓦をモデルとして製作した。



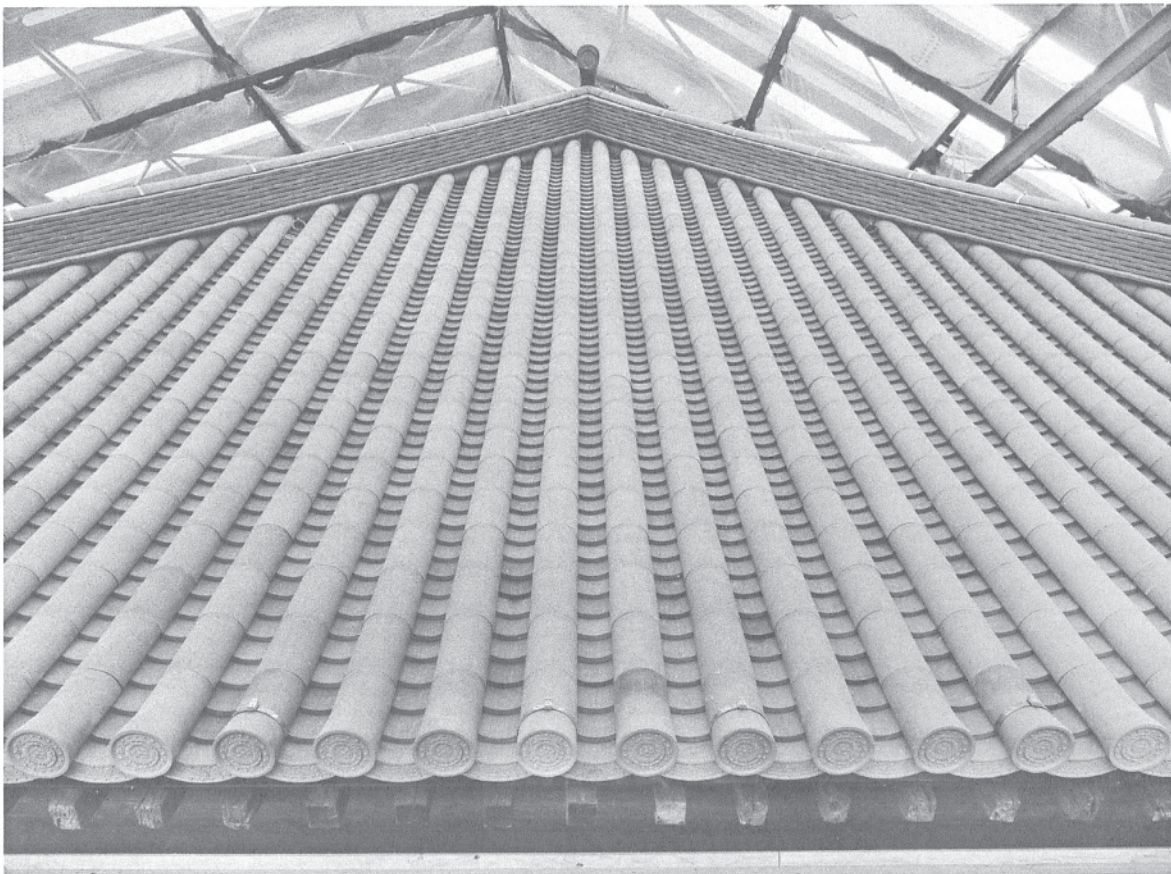
128 南面の本瓦葺葺き上がり

南面の本瓦葺の葺き上りを西南より見る。



129 南面の本瓦葺き上がり詳細

南より見る。再用瓦のうち天平期や鎌倉時代の古い瓦を中心に葺いた。軒丸瓦と丸瓦の5本に1本を釘止めとした。

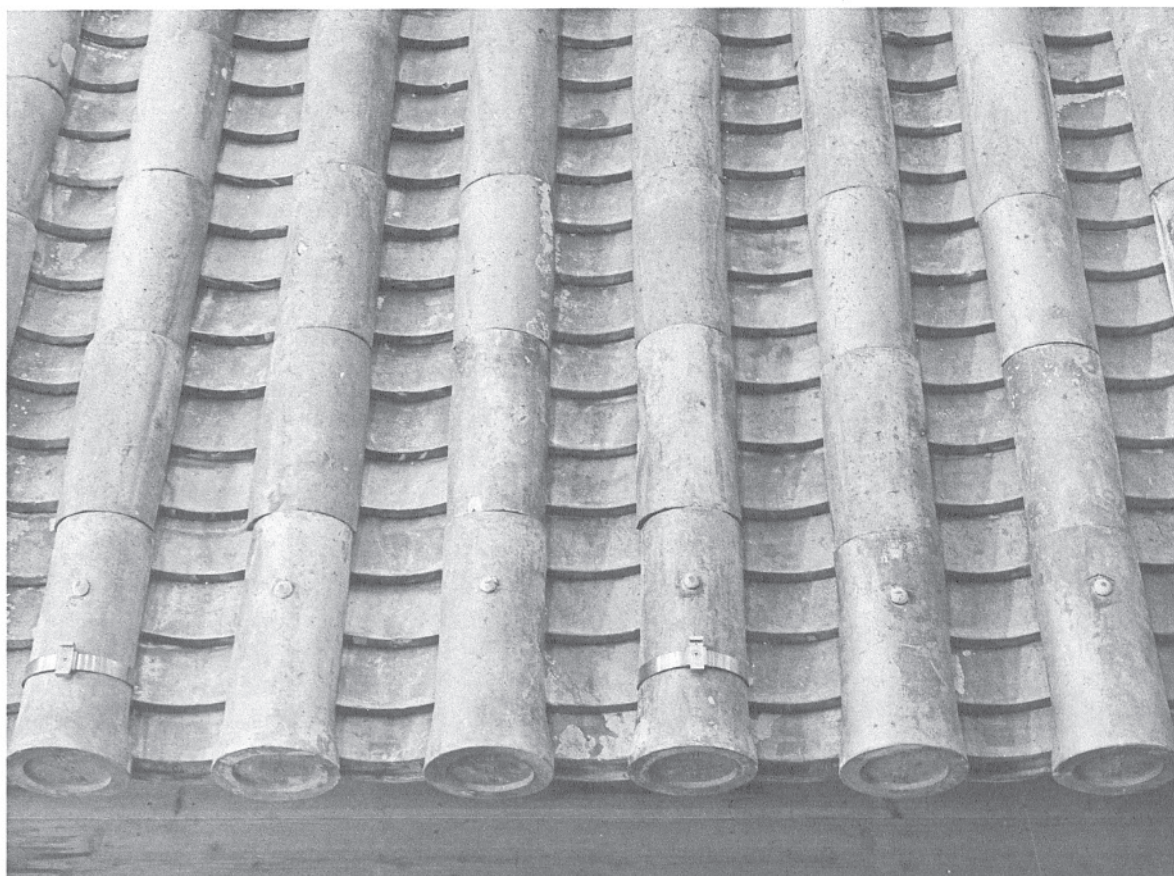


130 北面の本瓦葺き上がり詳細

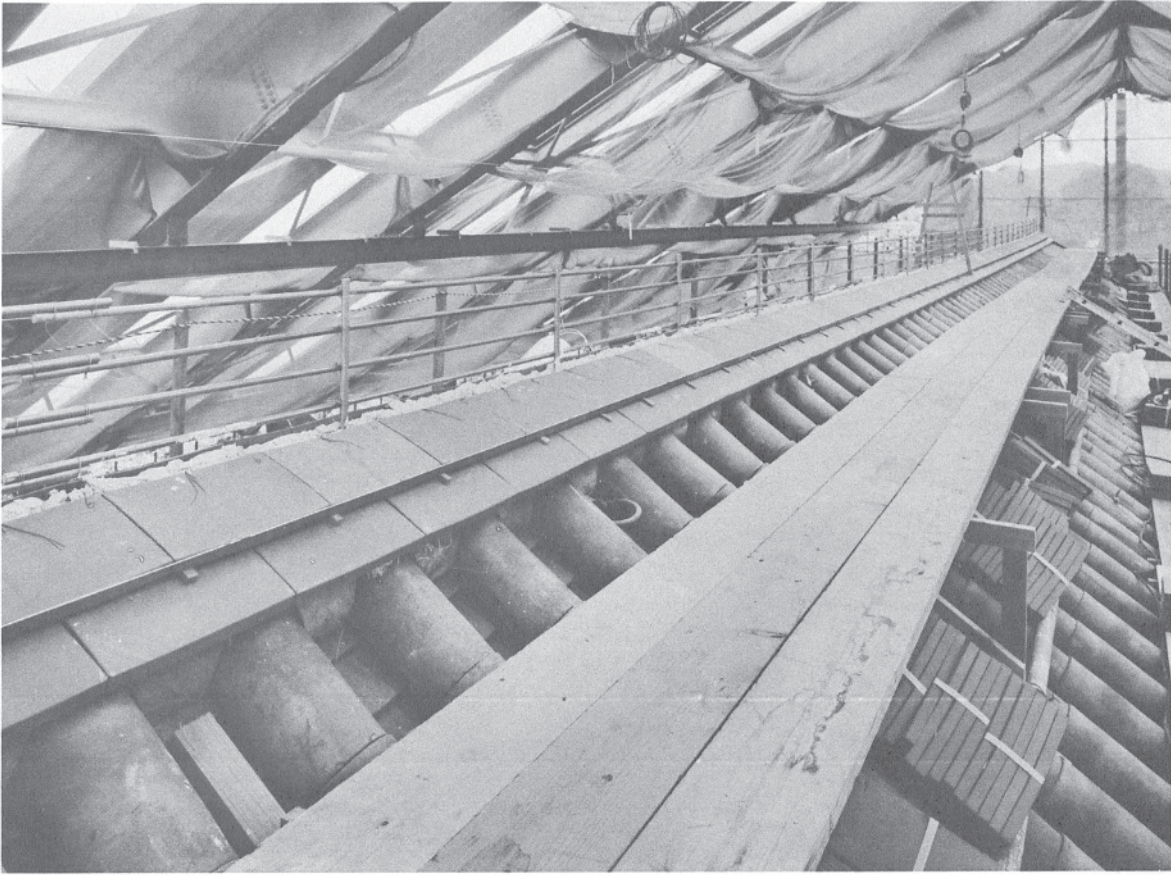
北より見る。現代製法で製作した補足瓦だけで葺いた。



131 東面の本瓦葺き上がり  
東面中央部を東より見る。江戸時代の  
再用瓦を中心に葺いた部分。修理前に  
倣い丸瓦は5本に1本を釘止めた。  
軒丸瓦の3本に1本取り付いているの  
は、避雷導体の固定用金具である。



132 東面の本瓦葺き上がりの軒先詳細  
東より見る。平瓦の葺足は修理前に倣い3寸5分とし、軒丸瓦は大正期に作られた銅釘を再用して止めた。



133 大棟棟積施工中

東南より見る。台熨斗瓦を据えて、割熨斗瓦を1段積んだところ。芯にはステンレスの鋼棒を入れ、熨斗瓦をこの鋼棒に銅線で結ぶことにより地震時の対策とした。



134 大棟棟積完了

東南より見る。大棟は台熨斗瓦1段、割熨斗瓦10段に積み、丸雁振瓦で納めた。



135 大棟棟積完了北端  
東より見る。鳥衾瓦は大正十年のものを  
を再用し、鬩斗瓦及び丸雁振瓦はすべて  
取り替えた。



136 大棟棟積完了南端  
東より見る。鳥衾瓦は大正二年のものが  
載っていたが破損が著しかったため  
今回は大正十年の形状に倣い造り替えた。



137 敷桁補強後の南倉一階西面

東北より見る。大正修理で取り替えられた内部柱に支持柱を足した。二階には敷桁を受けるために同様に大正期の内部柱脇に支持柱を添わせており、さらにそれを受けるために一階にも挿入した。



138 敷桁補強後の南倉一階南面

北より見る。西面同様、南面も大正期の内部柱に、さらに支持柱を添わせた。